

魅力ある・選ばれる 一栗山高校を 目指して



令和2年度第4回魅力づくり委員会
(令和3年1月26日)

平成31年4月、栗山高校の入学人数が33人となり、1学年の学級編制が2学級から1学級に削減されたことを受け、栗山町唯一の高校である栗山高校の存続に対する危機感が高まりました。さらに、今年の入学人数が40人となり、一昨年以来となる1学級編制となりました。

これまで町は、自分たちの町の高校は自分たちが守っていかねばならないという考えのもと、町民が栗山高校の魅力について自由に話し合う「北海道栗山高等学校の魅力づくり委員会」を設置し、約2年間にわたり町民独自の目線で栗山高校の魅力づくりについて検討を重ねてきました。

新たな支援策として制度化しました。

今後も、各種支援策の活用実績や導入効果の検討・評価を行うとともに、生徒の進路希望の実現や生徒確保と募集間口維持に資する支援項目など、魅力ある学校づくりの実現につながる支援策の検討を進めていきます。

◆「魅力づくり委員会」調査・検討報告書の提出

平成31年2月設置の「北海道栗山高等学校の魅力づくり委員会」は、保護者や地域産業界からの代表、議会、教育関係者、まちづくり団体、町民有志の方などさまざまな分野の委員で構成され、これ

◆栗山高校の現状

令和3年4月の栗山高校の入学人数は40人で、前年度と比較して14人減の1学級となりました。

学級減となったものの、栗山高校では生徒一人ひとりに目の行き届いた教育を行うため、今年度の新入生についても2学級体制で運営していくことになりました。

しかし、このまま入学人数の増加がなければ、この体制を維持することは難しく、募集人数が減る可能性があり、栗山高校への進学を希望しても入学できない状況になることが危惧されています。

今後、北海道教育委員会では地

入学人数の推移（過去5年間）

年度	入学人数	学級数
平成29年度	58人	2
平成30年度	52人	2
平成31年度	33人	2→1
令和2年度	54人	2
令和3年度	40人	2→1

※入学人数は毎年5月1日現在の在籍状況です。

域ごとの中学卒業生数の状況や生徒の進路動向などの把握を進め、学級増の必要性を検討したうえで今年9月に策定する配置計画で募集学級数を決定する予定です。

◆栗山町の支援制度を拡充

町では、各種資格取得や模擬試験受験料・部活動大会派遣費の助成、海外研修派遣事業での栗山高校生徒の創設など、在学生徒の資質向上と高校の魅力づくりを支援しています。

令和2年度、町教育委員会で設置の「北海道栗山高等学校支援検討委員会」での議論をはじめ、由仁町・南幌町在住の中学生と栗山高校生徒の保護者を対象に実施した「高校通学手段等に関するアンケート調査」の結果を踏まえ、支援制度に関する検討・協議が進められ、生徒や保護者が栗山高校を選択し得る環境整備を進める観点から支援メニューを拡充しました。

具体的には、1つ目に部活動終了後の下校便運行支援に係る「部活動通学支援補助」、2つ目に入学生徒の保護者を対象に、高校入学準備に必要な経費の一部を支援する「入学準備支援金」の2項目

支援補助金の活用実績（令和2年度）

事業内容	件数	補助金額	主な支援内容
部活動大会派遣費補助	2件	46,500円	高文連全道高等学校書道展 / 美術展・研究大会
学習支援ソフト使用料補助	131件	433,180円	Classi 基本サービス（生徒131人分）
進学模擬試験受験料補助	42件	60,305円	基礎小論文模試、高3総合学力記述模試、看護模試等
資格取得受験料補助	90件	124,350円	実用英語技能 / ビジネス文書実務 / 漢字・簿記能力検定等
海外研修補助	-----	-----	「少年ジェット希望の翼」の参加費補助（生徒2人分）
【新】スキー学習交通費補助	4件	66,000円	北長沼スキー場までのバス借上料（年間各学年2回分）
【新】入学準備支援金	40件	1,020,000円	高校入学準備に必要な経費の一部を支援（栗山中学校卒業生は3万円、栗山中学校以外の中学校卒業生は1万5千円）
合計	309件	1,750,335円	

※海外研修補助は感染症対応により、町教育委員会事業未実施のため派遣なしです。

まで延べ11回におよぶ委員会を開催し、栗山高校の魅力づくりなどについて町民目線での協議を進めてきました。

また、アドバイザーとして小樽商科大学の安宅仁人教授を招へいし、高等教育を取り巻く国の動向や先進地の取り組み事例をはじめ、栗山高校の魅力づくりに関する助言や提言を受けながら検討をしてきました。

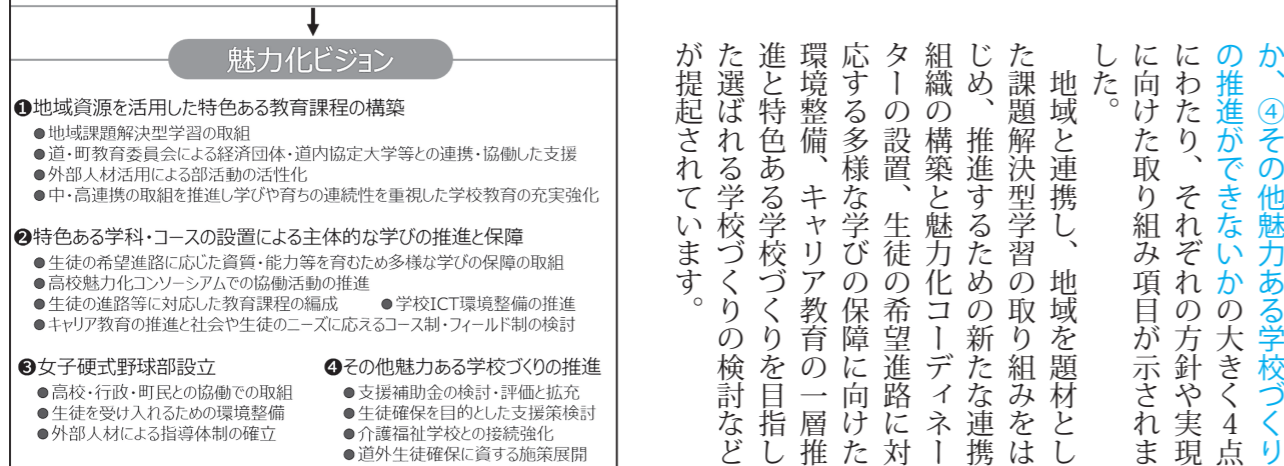
2年余りにわたる協議や検討の過程では、地域の大切な教育機関である栗山高校の今後の在り方について熱心な議論が行われ、多様な意見が出ました。委員一人ひとりの考えを最大限尊重しつつ意見集約が図られ、町民が考える魅力ある学校づくりに関する調査および検討結果をとりまとめ、4月21日、魅力づくり委員会より佐々木町長へ報告書が提出されました。

報告書では、栗山高校の現状分析、栗山中学校生徒・保護者を対象に実施した「高校進学に関するアンケート調査」の結果から見るニーズの把握、それらを踏まえたうえで、町民目線で「地域にとって栗山高校にどのような人財を育んでほしいか」ということや「栗山高校がこうあってほしい」とい

う願い、その方向性を示す目標が、基本理念と基本目標として盛り込まれました。

また、この目標を実現するための教育内容、目標と内容を実現・伝達していくための教育方法について、先進地事例を参考に、新たな魅力化を進めるための指針として「北海道栗山高等学校の魅力化ビジョン(案)」が策定されました。

この魅力化ビジョンでは、①地域資源を活用した特色ある教育活動が盛り込まないか、②特色ある学科・コースを設置するなど主体的な学びの推進ができないか、③女子硬式野球部の設立ができないか、④その他魅力ある学校づくりの推進ができないか、の大きく4点にわたり、それぞれの方針や実現に向けた取り組み項目が示されました。



報告書で示された「魅力化ビジョン(案)体系図」

回答 詳しい説明を掲載します
 広報くりやまに対するご意見をいただき、誠にありがとうございます。次回以降は、写真内容の詳しい説明を表紙または紙面に掲載いたします。

要望 広報くりやま6月号を拝読致しました。そこで、「今月の表紙」で田植えの写真が掲載されていますが「最新式ICT・・・」の説明など、写真の詳しい説明も掲載されると良かったとおもいました。今後も説明をつけて掲載されることを希望します。(70代男性)

提案 学生と社会人の交流について
 小学生～大学生が町に関わる機会がもつとあると思う。学生が主体となって町の未来を考えるワークショップや学生が主催する交流イベントなど。社会人との多世代間交流が生まれる仕組みができるより町の活性化に繋がるのではないかと。 (20代女性)



介護学校生も参加した栗山小学校土曜授業「栗つ子福祉教室」

回答 本町の取り組みについてご紹介します
 小学生～大学生が町に関わる機会についてのご意見ですが、町内の行事・イベントでは、町教育委員会主催の「栗山キッズクラブ」「ふるさとキャリア体験発表会」「栗山子ども会議」や、町内小中学校で実施している「土曜授業」、町民を対象とした「ハサンベツ里山作業日」などがあります。これらを通して、小・中・高の児童生徒、介護学校生は町民と交流を深めながら体験学習を行っています。今後も関係団体と連携しながら、ご提案ありました多世代間交流をはじめ、小学生～大学生が町に関わる機会を作っていきたいと考えておりますので、ご理解願います。

Catch Voice

くりやまキョウボイス

■あなたの声をしっかりとキャッチ！
 1枚のがきが明日のくりやまを変える!!

皆さんからのご意見お待ちしております！

- ① 広報折り込みの専用はがきで！
 2カ月に一度、広報に折り込まれる専用はがきを切り取って、必要事項を記入してポストに投函。(切手不要)
- ② ファックスで！
 はがきをそのまま、またはお好きな用紙に必要な事項を記入して「72-3179」に送信。
- ③ ホームページ専用フォームで！
 下記アドレスから <https://www.harp.lg.jp/SksJuminWeb/EntryForm?id=SfQnm4ig> または町ホームページの「町民の声」(画面下側)から専用フォームにアクセス。



【問い合わせ】 町総務課広報・防災・情報グループ ☎ 73-7501

◆2 間口維持に向けて
 栗山高校は、栗山町の中核的教育機関であり、これまで90年余にわたって本町を支え続けてきた「町内唯一の公立高校」です。若者の多くが町外に出るようになって



魅力づくり委員会三田委員長より佐々木学町長へ報告書を提出 (令和3年4月21日)

委員会を代表して報告書を提出した三田委員長は「報告書の中で提案した魅力化ビジョンは、できるものから速やかに取り組みを開始し、高校存続という大きな目的共有のもと、地域総ぐるみで展開することが極めて重要」と述べられ、佐々木町長は「これまでの真剣な議論に感謝するとともに、報告書で示された提案項目の一つひとつを検証し、栗山高校との熟議を重ね、魅力ある学校・選ばれる学校づくりを実現したい」と話し、報告書を受け取りました。

「一致団結して栗山高校を支える」



北海道栗山高等学校の魅力づくり委員会委員
 北海道栗山高等学校を支える会
 早坂 義幸会長 (栗山商工会議所専務理事)

2年前から魅力づくり委員会委員として「魅力ある・特色ある」高校づくりを進めるためアドバイザーの助言をいただきながら取り組んでまいりました。これまでも地域の高校で学び卒業した生徒が栗山の企業を支えることが多く、今後も栗山高校生徒の減少が続くことになれば、まちの経済は疲弊し、まちの存続にも影響を与える事態になりかねません。学校、町民、行政が一致団結して取り組みを進めなければ栗山高校の未来は無いかもしれません。そのために支える会としても主体的に行動していきたいと考えています。

た現在でも、栗山高校の卒業生が町内の各種企業などに職を求める傾向は強く、栗山の産業を担い、地域を支える有為な人材を輩出し続けています。しかしながら、近年、社会情勢の急速な変化が進むなか、生徒の興味・関心や進路希望の多様化、中学校卒業生数の減少など、栗山高校を取り巻く環境は非常に厳しい状況下であり、現在の高校選択にあつては、学校が生徒を選ぶ時代から、生徒が学校を選ぶ時代へ

と突入しています。このため、学校には令和4年度から年次進行で実施される新学習指導要領の内容および北海道教育委員会からの指針に基づき、魅力ある学校づくりを進める新たな教育の展開が求められており、このまま対策を講じなければ生徒数の減少に歯止めがかからず、近い将来、募集間口の減につながり、栗山高校の存続にとどまらず、地域の存続も危ぶまれる状況です。今春の入学状況や、今後の中

学校卒業見込者数、さらに、北海道教育委員会が策定する公立高等学校配置計画案の内容を鑑み、今夏には、道教委に対する栗山高校2間口維持に関する要望活動が予定されています。

◆魅力ある・選ばれる栗山高校へ
 町では、今後も栗山高校と連携した生徒募集活動、また、この度、魅力づくり委員会により報告書としてまとめられた「魅力化ビジョン(案)」を具現化するために、魅力化コネクターの配置や栗山高校を含めたコンソーシアム(連携組織)の設置を目指し、具体的な方策について高校と慎重に話し合い、学校・町民・行政が一体となって、地域総ぐるみで実現可能なものから速やかに取り組んでいきます。

【問い合わせ】
 町教育委員会学校教育課
 学校経営改善室
 ☎ 1117